

Satellite 2015& SSPIに参加して

(16～19 March 2015 Walter E. Washington Convention Center)

JFSC特別顧問 北爪 進

概要

桜の季節に毎年米国Washington D.C.にて開催される衛星通信に関するConference であるSatellite 2015 at Washington D.C. が今年は2015年3月16～19日 Walter E. Washington Convention Center にて開催されました。他プロジェクトの要件があった為都合により17,18日の2日間他の打合せの合間にConferenceとExhibitionに参加したのでその概要を報告します。また、Conference期間中の3月18日18時30分より例年通りSSPI & Galaも開催された。

Conference

Conferenceは先ず3月17日朝8時45分から2時間Opening General SessionとしてThe Big Four: Crunch Time Approach, by Eutelsat, Telesat, Intelsat and SESが開催されました。このSessionは世界の衛星通信事業者における4大事業者Eutelsat, Telesat, IntelsatとSESのCEOが一堂に集まり、今後の事業遂行の基本的考え方を討論し紹介する会であり数百人の聴衆が入る広い会場が聴衆であふれるSessionであります。私もThe Big Four: Crunch Time Approachの題名に誘われ聴講しました。題名が示す如くBig Fourと言えども今までのように安易には事業運営は出来ず、航空分野を含めた移動体通信分野、Ka-Band Applicationの活性化等で新しい事業者の参入と周波数調整の激化など所謂“試練の時”が近づいている、との危機感をもって事業運営をする必要があるとの認識である、との討論であった。更には後程紹介するSilicon Valley, Meet Satellite 2015の如くまったく新しい思想Business Mindを持った人材の衛星通信分野への参入が始まっているので従来の如く背広でネクタイのビジネススタイルではなく半袖にジーンズの世界で活躍している人々との競争が近づいているとの認識に立って、CEOの一人が立ち上がりネクタイを取りはずし背広を脱ぎ捨て半袖姿になって見せる場面もありました。

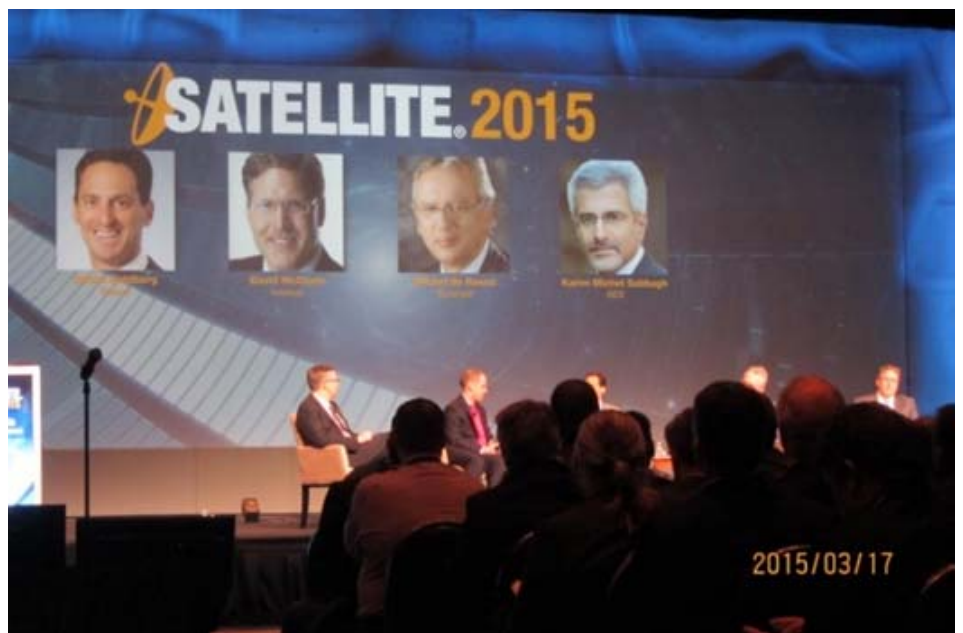


Fig-1: The Big Four: Crunch Time Approach, by Eutelsat, Telesat, Intelsat and SES

この他

- 1) 18日(8:30 to 10:00)のGeneral Session ではMSS CEOs: New Opportunities, New Competition by Matt Desch, Iridium communication, Samer Halawi, Thuraya Telecommunications Co. , Rupert Pearce Inmarsat Global Ltd がパネリストとなり移動体衛星通信分野について討論された。この分野は航空機移動体通信や海洋移動体通信分野で事業発展の機会があり、更なるHigh Bit Rate伝送の需要が高まっており、10Mbps BEGANへの発展の機会が期待されるが、その為にはKa-Band領域の開発が必要となり、FSSとの周波数調整が熾烈になりBig Fourが感じている事と同様“試練の時代”に入ると身構えている姿勢を見せていました。



Fig-2: MSS CEOs: New Opportunities, New Competition

- 2) Silicon Valley, Meet Satellite 2015 (18日13:45 to 15:00)ではいよいよSilicon Valleyで活躍している人脈が衛星通信分野、特に小型衛星の応用に参入してくる兆しが見えて、従来の衛星通信オペレータは従来とは異なったBusiness Mannerへの対応に負われるのではと憂慮しており、これまた“試練の時”を迎える事であろうと身構えているように感じた(Computer Programmers into Space geeks)。また今年がSilicon ValleyからSatellite 2015衛星通信への参画元年となり来年度以降も継続される気配を感じた。
- 3) COMMERCIAL Launch Leaders: Next-Gen Rockets and Vehicles RevealedのSessionでは商業衛星打ち上げ事業社7社Virgin Galactic, Arianespace, Space-X, MHI, Lockheed Martin Commercial Launch Services, International Launch Services, Spaceflight Inc.の代表が一堂に会して議論した。Space-Xの参入で低価額での打ち上げ機会が増えてきた、SP-JSATも次期通信衛星の打ち上げにSpace-Xを採用している、7社の代表による議論の末の結論は顧客満足の為にはスケジュール、信頼性、プライスの順で大切であるとの結果であった。スケジュール確保が一番重要であるとの認識であった。



Fig-3: Visitor from Silicon Valley (半袖とジーパンの世界より)

Exhibition

展示会場は3月17日(火)10時30分より開場された(Exhibit Hall open at 10:30am)。General Dynamics, Boeing Company, Intelsat, Hughes Network, Inmarsat等衛星通信関連企業の常連はもとより通信衛星メーカーを始め衛星通信オペレータ、衛星通信地上装置メーカー、衛星通信部品メーカー等400社を超えるメーカーが出展している。中でもKu-Band, Ka-Band移動体通信地上システムの展示が多く目を引く状況であったのは私の気のせいであったろうか。それはInmarsat GX Ka-Band 5~10Mbps通信対応の通信機器が主流を占めているようにも見えた。これは日本におけるジパング計画の中核となっている“海洋B.B.計画”は先ずはWINDS対応としているが、Inmarsat-GX利用も念頭においてInmarsat機関が開発しているKa-Band計画について情報収集を行う良い機会となっているようにも感じられた。



Fig-4 :展示会場全景

出展ブースは400社を超えているが、その中でも日本からの出展はS.P.JSAT, 日本無線、NEC電子管部門の3社でなんとなく寂しく感じてしまうのは私だけであろうか。

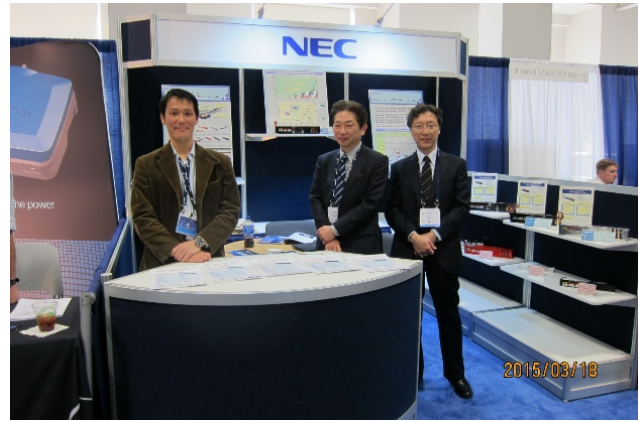
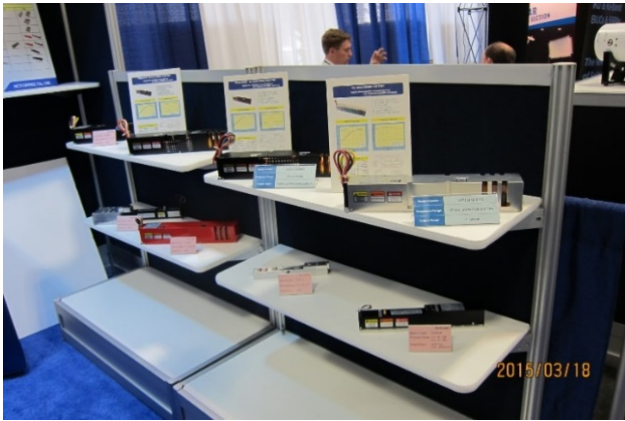


Fig-5:日本よりの出展企業



Ka-band High Power Amp.



Ka-Band Application (EMS)

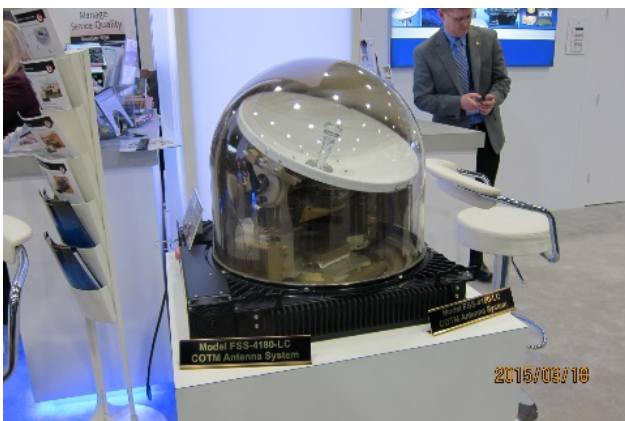


Fig-6: Ka band Applicationの展示

SSPI& Gala

3月18日18:30 to 23:00pmにSSPI(Society of Satellite Professionals International) & Gala Black Tie Receptionが開催されました。今年は第26周年目に当たるとのことであり歴史あるイベントである、The SSPI Gala is the satellite industry's preeminent social and networking event of the yearと位置づけられています。

衛星通信分野で功績をあげ殿堂入り(Fall of Fame)された人の名誉を讃える祝賀会であろう。従来、参加者はブラックタイという正装で参加するように義務つけられているが近年は蝶ネクタイと平服のみで

の参加が許されているようになった、更に今年は蝶ネクタイもなく普通のネクタイで参加する人がほとんどになった。これも時代の流れであろうか。

今年のSSPI 2015殿堂入り(Hall of Fame Inductees)はDirk Breynaert NEWTEC, Mark Dankberg ViaSat, David Thompson Orbital ATK, Dr. Xuyen T. Vuong ARTEL LLC の4氏でありました。

Dirk BreynaertはDVB-S シリーズの開発者として、Mark DankbergはKa-BandのGlobal Communicationの開発者として、David ThompsonはCost effectiveなLaunch SystemやSmall Class GEO Satelliteの開発に貢献していること、Dr. Xuyenは衛星通信システムにおいて降雨減衰を考慮したLink Budgetの確立等衛星通信の基本事項の開発に貢献があったなどが評価されたとのことでした。



Fig-7: SSPI & GaLa

その他

AIAA ICSSC 2015についてAIAA Potential Committee Meetingが3月18日正午より1時間SSL社提供の会義室にて開催された。AIAA ICSSC 2015 ConferenceのGeneral ChairであるEMS Dr. Rowan Gilmoreを始めAIAA TCのSakarya-san, Tom Butash等が出席され現状報告と今後の対応を協議した、この機会にJFSCのICSSC 2015に関する活動近況の説明を要請された為概略を報告した。主要事項として論文Abstractの提出締切4月1日が2週間弱に迫っているが当日まで6件の提出にとどまり危機的な状況であるとの認識を伝え(4月1日時点51件)今後促進が必要であるとの報告を行った。また日本からのSponsorshipの可能性についても付け加えた。■